

「同種工事」のトンネル1本の施工延長の考え方は、次の例を参考にしてください。

例1) 「同種工事」で2本のトンネルを施工した場合

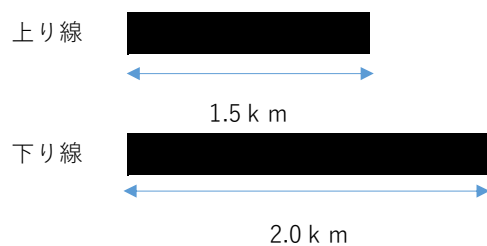


「同種工事」で延長1.0 k mのトンネルと延長2.0 k mの別々のトンネルを施工した。

⇒ **トンネル1本の延長が2.0 k mの施工実績がある。**

(2本を合計し延長3.0 k mの施工実績とはしない。)

例2) 「同種工事」で上り線・下り線で別々のトンネルを施工した場合  
1

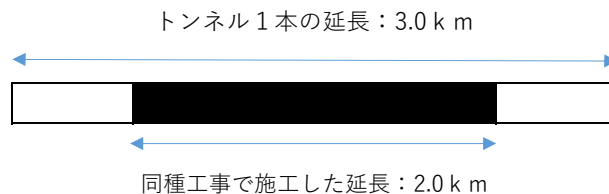


「同種工事」で上り線延長1.5 k mのトンネルと下り線延長2.0 k mの別々のトンネルを施工した。

⇒ **トンネル1本の延長が2.0 k mの施工実績がある。**

(2本を合計し延長3.5 k mの施工実績とはしない。)

例3) 「同種工事」で1本のトンネルの一部を施工を施工した場合



「同種工事」で延長3.0 k mの1本のトンネルのうち、延長2.0 k mを施工した。

⇒ **トンネル1本の延長が2.0 k mの施工実績がある。**

(「同種工事」の中で施工していない延長を含めない。)